

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：中村百合子 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(報告・発表) 精神障がい者と健常者における倦怠感の比較検討	共同	2015 年 9 月	第 17 回日本ヒューマン・ケア学会	健常者と精神障がい者の倦怠感の特徴を比較検討することを目的とした。t 検定の結果、身体的倦怠感で有意差がみられ、精神障がい者の身体的倦怠感が強かった。また、精神障がい者の場合、認知的倦怠感以外の全てにおいて、ライフイベントが有意な関連要因であった。ストレスフルな状況が心身面の倦怠感につながると考えられる。精神障がい者の倦怠感の緩和には睡眠の確保が重要な事も示唆された。 (中村百合子、山崎登志子、大沼いづみ、糠信憲明、松本睦子、野間雅衣) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2	(報告・発表) 健常者における倦怠感の特徴と倦怠感尺度の信頼性・妥当性	共同	2015 年 9 月	第 17 回日本ヒューマン・ケア学会	健常者におけるがん患者用倦怠感尺度(CFS)の信頼性・妥当性を検証したうえで、健常者の倦怠感の特徴を明らかにすることを目的とした。調査結果ではほぼ CFS の因子構造となり、内的整合性が確認され、がん患者と精神障がい者との倦怠感の比較が可能と考えられた。 (山崎登志子、中村百合子、大沼いづみ、糠信憲明、松本睦子、野間雅衣) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3	(報告・発表) 地域で生活している統合失調症患者の倦怠感の関連要因について	共同	2014 年 12 月	第 34 回日本看護科学学会学術集会	地域で暮らしている統合失調症患者の倦怠感を身体面、精神面、認知面から検証し、その関連要因を明らかにした。睡眠は倦怠感全ての側面に影響していた。CP 値は認知的倦怠感に関連しており、抗精神病薬の量が心身面より集中力や思考力の減退に影響する可能性を示しており、精神症状とともに認知面を考慮しつつ内服支援を行っていくことが重要である。(中村百合子、山崎登志子、大沼いづみ、糠信憲明、高下蓮美、片岡初代) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4	(報告・発表) 統合失調症患者における倦怠感尺度の信頼性・妥当性の検討と倦怠感の特徴	共同	2014 年 12 月	第 34 回日本看護科学学会学術集会	倦怠感を多次元でとらえられるがん患者の倦怠感尺度(CFS)を用い、統合失調症患者におけるCFSの信頼性・妥当性を検証したうえで、統合失調症患者の特徴を明らかにすることを目的とした。その結果、がん患者と同じ CFS の因子構造が確認された。今回の対象者の得点は、先行研究の対象者より高く、下位尺度でも同様の結果であった。統合失調症患者の総合得点から日常生活に支障があると考えられ、その点を考慮した援助が重要であることが示唆された。 (山崎登志子、中村百合子、大沼いづみ、糠信憲明、片岡初代、高下蓮美) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5					